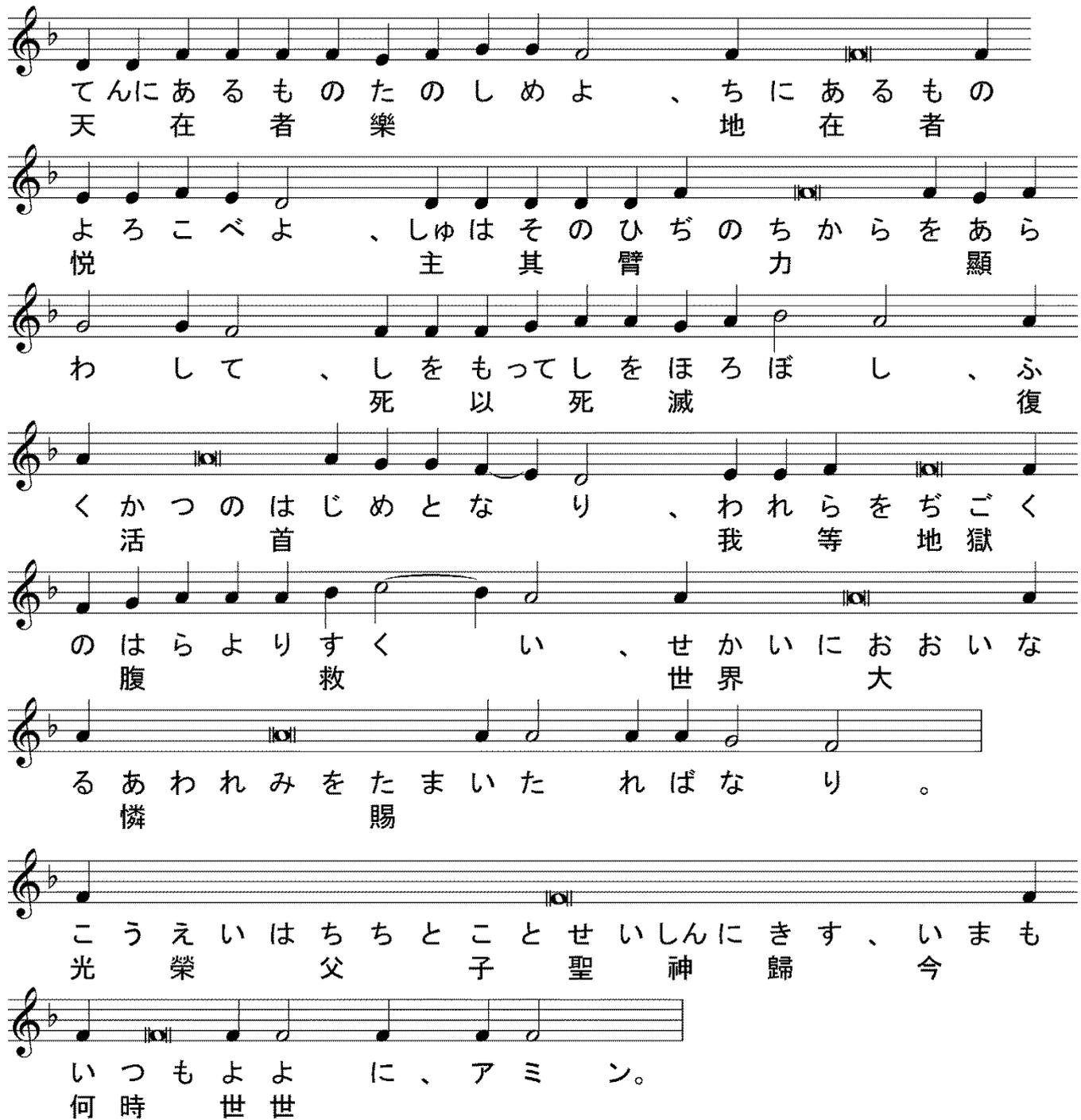


【 復活讃詞 第3調 】



てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの  
天在者樂、地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら  
悦主其臂力顯

わして、しをもつてしをほろぼし、ふ復  
死以死滅

くかつのはじめとなり、われらをぢごく  
活首我等地獄

のはらよりすくい、せかいにおおいな  
腹救世界大

るあわれみをたまいたればなり。  
憐賜

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
光榮父子聖神歸今

いつもよよに、アミン。  
何時世世

【 日本の亜使徒聖ニコライの讃詞 第4調 】



しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
使徒等同座者、忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
實神智役者、聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい  
神撰笛愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満器我國光  
 しょおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照者使徒主教聖  
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および  
 爾羊群爲及  
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい  
 全世界爲生命賜聖  
 さんしゃにいのりたまえ。  
 三者祈給

【 聖三の歌 】

代禱) 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聆き給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ  
 主敬虔者救及我  
 らにききたまえ。  
 等に聆給

代禱) 世々に、

アミン。

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
 聖神聖勇毅聖  
 じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
 常生者我等憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ  
 常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
 光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸 今 何 時 世 世 に、アミン。

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを  
 毅 聖 常 生 者 我 等 を

あわれめよ。  
 憐

【 提綱 (プロキメン) 主日第3調 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) プロキメン、<sup>わ</sup> <sup>かみ</sup> <sup>うた</sup> <sup>うた</sup> <sup>わ</sup> <sup>おう</sup> <sup>うた</sup> <sup>うた</sup> 我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お  
我 神 歌 歌 我 王  
う に う た い う た え よ 。  
歌 歌

誦經) <sup>ばんみん て う よろこび こえ もつ かみ よ</sup> 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お  
我 神 歌 歌 我 王  
う に う た い う た え よ 。  
歌 歌

誦經) <sup>わ かみ うた うた</sup> 我が神に歌い歌えよ、

わ が お う に う た い う た え よ 。  
我 王 歌 歌

【 使徒經 (アポストロス) 158 端 コリント前書 15 章 1 節～11 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと じん たつ ぜんしょ よみ</sup> 聖使徒パウエルがコリント人に達する前書の讀、

代禱) <sup>つつし き</sup> 謹みて聽くべし、

誦經) <sup>けいてい わ かつ なんぢら つた ふくいん またなんぢら つ すなわちなんぢら う ところ</sup> 兄弟よ、我が嘗て爾等に傳えし福音を復爾等に告ぐ、仍爾等が受けし所、

<sup>これ もつ た ところ なんぢらも これ わ ふくいん ごと まも かついたづら しん</sup> 之を以て立ちし所なり。爾等若し之を我が福音せし如く守り、且徒に信ずるこ

<sup>これ よ すくい え けだしわ はじめ なんぢら つた ところ われみづか う</sup> となくば、之に由りて救を得ん。蓋我が初に爾等に傳えし所は、我自らも受け

<sup>ところ すなわち われら つみ ため し せいしよ する ごと またかれ</sup> し所なり、即ハリストスは我等の罪の爲に死せり、聖書に録せるが如し、又彼は

<sup>ほうむ だいさんじつ ふくかつ せいしよ する ごと また のちじゅうににん あらわ</sup> 葬られ、第三日に復活せり、聖書に録せるが如し。又キファに、後十二人に現

<sup>そのちごひやくよ けいてい とも あ あらわ そのうちおお もの いま いた なおそん</sup> れ、其後五百餘の兄弟と共に在るに現れたり、其中多くの者は今に至るまで猶存

<sup>すで ねむ もの そのち またことごと しと あらわ つい われつきた</sup> す、已に寝りたる者もあり。其後イアコフに、又悉くの使徒に現れ、卒に我月足ら

<sup>ごと もの あらわ けだしわれ しと うち おい もつともちいさ もの しと な</sup> ぬ如き者にも現れたり。蓋我は使徒の中に於て最小き者にして、使徒と名づけら

るに堪えず、神の教會を窘逐せしが故なり。然れども神の恩寵に由りて、我は我  
 たるを得たり、且我に存する神の恩寵は空しからざりき、乃我は彼等衆よりも多  
 く勞せり、然るに我に非ず、乃我と偕にする神の恩寵なり。故に我と彼等とを論  
 ぜず、我等是くの如く傳う、爾等も是くの如く信ぜり。

\*\*\*\*\*

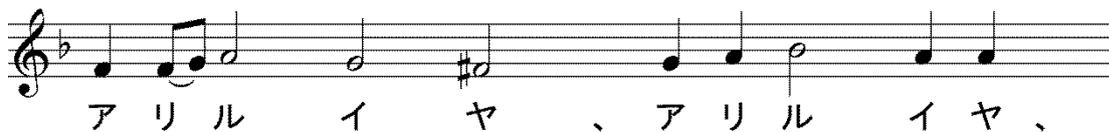
(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受けいれ、それ  
 によって立ってきたあの福音を、思い起してもらいたい。もしあなたがたが、いたずらに信じないで、  
 わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。わたし  
 が最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであった。すなわちキリ  
 ストが、聖書に書いてあるとおりの、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書  
 に書いてあるとおりの、三日目によみがえったこと、ケパに現れ、次に、十二人に現れたことである。  
 そののち、五百人以上の兄弟たちに、同時に現れた。その中にはすでに眠った者たちもいるが、大多  
 数はいまなお生存している。そののち、ヤコブに現れ、次に、すべての使徒たちに現れ、そして最後  
 に、いわば、月足らずに生れたようなわたしにも、現れたのである。実際わたしは、神の教会を迫害  
 したのであるから、使徒たちの中でいちばん小さい者であって、使徒と呼ばれる値うちのない者であ  
 る。しかし、神の恵みによって、わたしは今日あるを得ているのである。そして、わたしに賜わった  
 神の恵みはむだにならず、むしろ、わたしは彼らの中のだれよりも多く働いてきた。しかしそれは、  
 わたし自身ではなく、わたしと共にあった神の恵みである。とにかく、わたしにせよ彼らにせよ、そ  
 のように、わたしたちは宣べ伝えており、そのように、あなたがたは信じたのである。

\*\*\*\*\*

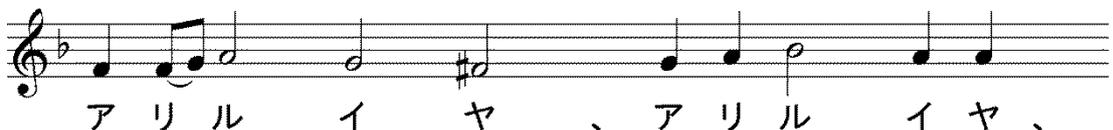
代禱) 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第3調 】



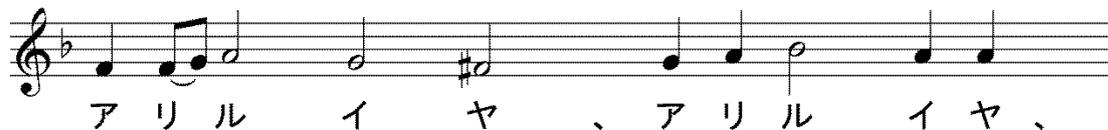
誦經) 主よ、我爾を恃む、願わくは我世世に羞を得ざらん、





ア リル イ ヤ 。

誦經) 我<sup>わ</sup>が爲<sup>ため</sup>に堅固<sup>けんこ</sup>なる避<sup>かく</sup>所<sup>れが</sup>となりて、我<sup>われ</sup>に常<sup>つね</sup>に隠<sup>かく</sup>るるを得<sup>え</sup>しめ給<sup>たま</sup>え、



ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、



【 福音經 (エヴァンゲリオン) マトフェイ福音書 79 端 19 章 16~26 節 】

代禱) 睿<sup>えいち</sup>智、

誦經) マトフェイ傳<sup>でん</sup>の聖<sup>せい</sup>福<sup>ふく</sup>音<sup>いん</sup>經<sup>けい</sup>の讀<sup>よみ</sup>、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



はなんぢにきす。  
爾 歸

代禱) 謹<sup>つつし</sup>みて聽<sup>き</sup>くべし、

誦經) 彼<sup>か</sup>の時<sup>とき</sup>或<sup>ある</sup>少<sup>わか</sup>き者<sup>もの</sup>イイススに就<sup>つ</sup>きて、跪<sup>ひざまづ</sup>きて曰<sup>い</sup>えり、善<sup>ぜん</sup>なる師<sup>し</sup>よ、我<sup>われ</sup>永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>の生命<sup>いのち</sup>を得<sup>え</sup>ん

爲<sup>ため</sup>に、何<sup>なに</sup>の善<sup>よ</sup>き事<sup>こと</sup>を爲<sup>な</sup>すべきか。彼<sup>かれ</sup>は之<sup>これ</sup>に謂<sup>い</sup>えり、爾<sup>なんぢ</sup>は何<sup>なん</sup>ぞ我<sup>われ</sup>を善<sup>ぜん</sup>と稱<sup>とな</sup>うる、獨<sup>ひとり</sup>神<sup>かみ</sup>

よ<sup>ほか</sup>り外<sup>ぜん</sup>に善<sup>もの</sup>なる者<sup>なんぢ</sup>なし、爾<sup>なんぢ</sup>若<sup>い</sup>し生命<sup>いのち</sup>に入<sup>い</sup>らんと欲<sup>ほつ</sup>せば、誠<sup>いましめ</sup>を守<sup>まも</sup>れ。彼<sup>かれ</sup>曰<sup>いわ</sup>く、何<sup>なん</sup>の

誠<sup>いましめ</sup>ぞ。イイスス曰<sup>い</sup>えり、殺<sup>ころ</sup>す母<sup>なか</sup>れ、淫<sup>いん</sup>する母<sup>なか</sup>れ、竊<sup>ぬす</sup>む母<sup>なか</sup>れ、妄<sup>もう</sup>證<sup>しょう</sup>する母<sup>なか</sup>れ、爾<sup>なんぢ</sup>の

父<sup>ふ</sup>母<sup>ぼ</sup>を敬<sup>う</sup>え、又<sup>また</sup>爾<sup>なんぢ</sup>の鄰<sup>となり</sup>を愛<sup>あい</sup>すること己<sup>おのれ</sup>の如<sup>ごと</sup>くせよ。少<sup>わか</sup>き者<sup>もの</sup>彼<sup>かれ</sup>に謂<sup>い</sup>う、我<sup>われ</sup>幼<sup>いとけ</sup>よ

り皆<sup>みな</sup>之<sup>これ</sup>を守<sup>まも</sup>れり、尚<sup>な</sup>足<sup>おた</sup>らざる者<sup>もの</sup>は何<sup>なん</sup>ぞや。イイスス之<sup>これ</sup>に謂<sup>い</sup>えり、爾<sup>なんぢ</sup>完<sup>かん</sup>全<sup>ぜん</sup>ならんと欲<sup>ほつ</sup>せ

ば、往<sup>ゆ</sup>きて、爾<sup>なんぢ</sup>の所<sup>しょ</sup>有<sup>ゆう</sup>を售<sup>う</sup>りて、貧<sup>ひん</sup>者<sup>しゃ</sup>に施<sup>ほ</sup>せ、然<sup>しか</sup>らば財<sup>たから</sup>を天<sup>てん</sup>に有<sup>たも</sup>たん、且<sup>かつ</sup>來<sup>きた</sup>りて我<sup>われ</sup>

に從<sup>したが</sup>え。少<sup>わか</sup>き者<sup>もの</sup>此<sup>この</sup>の言<sup>ことば</sup>を聞<sup>き</sup>きて、憂<sup>うれ</sup>いて去<sup>さ</sup>れり、大<sup>お</sup>なる資<sup>し</sup>産<sup>さん</sup>を有<sup>も</sup>てる故<sup>ゆえ</sup>なり。イイス

そのもんと い われまこと なんぢら つ と もの てんこく い かた またなんぢら  
ス其門徒に謂えり、我 誠に爾等に語ぐ、富める者は天國に入ること難し。又 爾等に

つ らくだ はり あな とお と もの かみ くに い やす もんとこれ き はなはだ  
語ぐ、駱駝が針の孔を穿るは、富める者が神の國に入るより易し。門徒之を聞きて、甚

おどろ い しか だれ よ すく め そそ かれら い こ ひと  
驚きて曰えり、然らば誰か能く救われん。イイス目を注ぎて、彼等に謂えり、此れ人に

よく ところ ただかみ よく ところ  
は能せざる所なり、唯神には能せざる所なし。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。父と母とを敬え』。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』。この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」。イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。それからイエスは弟子たちに言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者が天国にはいるのは、むずかしいものである。また、あなたがたに言うが、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。弟子たちはこれを聞いて非常に驚いて言った、「では、だれが救われることができるのだろうか」。イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。  
爾 歸

※代式祈祷③ へ